※令和３年度以前入学生用

学校番号	317

令和５年度　理科

教科	理科	科目	化学	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	改訂　新編　化学　（東京書籍）						
副教材等	ニューサポート　改訂　新編　化学（東京書籍）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「化学」の授業では２年次に続いて化学の内容をより深く学んでいきます。化学は日常生活や産業と密接に関係した学問です。化学を応用発展させることで、我々はより便利で生活しやすい社会を築いてきました。実際の身の回りの現象や製品に目を向けながら、学習していきましょう。

教科書と副教材を用いて学習していきます。また積極的に実験も行います。時には計算も出てきますが、あせらずきちんと学習していきましょう。

２　学習の到達目標

化学的な事物・現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，化学的に探究する能力と態度を育てるとともに，化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的な自然観を育成する。

物質とその変化について，化学的な解釈や説明ができることを通して，興味・関心を探究心にまで高め，知的好奇心をもって問題を見いだし，主体的に解決しようとする意欲を高める。化学的な事物・現象に関する基礎的な知識および基本的な概念や原理・法則を，深く系統的に理解させる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:観察･実験の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	自然の事物・現象に関心をもち，意欲的にそれらを探究しようとするとともに，科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し，探究する過程を通して，事物を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現している。	観察，実験を行い，基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録，整理し，自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物･現象について,基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身に付けている。
評価方法	授業態度 発問評価 演習問題	定期考査 ノート 演習問題 発問評価	授業態度 実験レポート	定期考査 ノート 演習問題 実験レポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	三編　化学反応の速さと平衡	1章　化学反応の速さ 2章　化学平衡 3章　電解質水溶液の平衡	○ ○ ○	○ ○ ○	 ○ 	○ ○ ○	a:　反応速度の表し方及び反応速度に影響を与える要因を理解する。 b:　可逆反応，化学平衡及び化学平衡の移動を理解する。 c:「平衡の移動」について考察ができる。 d:　水のイオン積,pH 及び弱酸や弱塩基の電離平衡について理解する。	定期考査 提出物 発問評価 授業態度 実験レポート
二学期	四編　無機物質	1章　非金属元素 2章　典型金属元素 3章　遷移元素 4章　無機物質と人間生活	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	 ○ 	○ ○ ○ ○	a:　典型元素の単体と化合物の性質や反応を周期表と関連付けて理解する。 b:　遷移元素の単体と化合物の性質や反応について理解する。 c:「アルカリ金属の性質」について考察ができる。 d:　無機物質が，その特徴を生かして人間生活の中で利用されていることを理解する。	定期考査 提出物 発問評価 授業態度 実験レポート
三学期	五編　有機化合物	1章　有機化合物の基礎 2章　脂肪族化合物 3章　芳香族化合物 4章　有機化合物と人間生活	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	 ○ 	○ ○ ○ ○	a:　脂肪族炭化水素の性質や反応を構造と関連付けて理解する。 b:　官能基をもつ脂肪族化合物の性質や反応について理解する。 c:「サリチル酸メチルの性質」について考察ができる。 d:　芳香族化合物の構造，性質及び反応について理解する	定期考査 提出物 発問評価 授業態度 実験レポート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:観察･実験の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。